

## 第1回水と緑の森づくり会議（H28.5.24） 議事概要

### 1. 水と緑の森づくり事業等について

#### ○龜井委員

- ・みーもの森づくり事業の交付率について 1/2 以内とあるが、提案書のほとんどが 10/10 で計算されていたことについて、間違っていないか？
- （事務局）交付要綱別表 1 で、10/10 以内としてよい場合の条件に該当するものについては 10/10 で計算されている。
- ・みーもの森づくり事業の件数が、H27 年度は 28 件採択、H28 年度は 44 件の提案が出ているが、今年度は例年に比べて多いということか。
- （事務局）H28 年度の 44 件のうち、15 件は継続事業のため、新規の提案は 29 件で例年並みとなっている。

#### ○中島委員

- ・アンケート調査の H21～H27 年度の認知度の推移について、情報発信の効果は見られたと判断しているのか。
- （事務局）認知度の低い層をターゲットにアイデアを出しながら情報発信を行っているが、思うように数字に表れていないのが現状。委員の皆様からのご意見、アイデアをいただきたい。
- ・みーも通信はどんな人を対象に製作しているのか。
- （事務局）アンケート調査で認知度の低かった 20～30 代の女性や子育て世代。イベントによる PR でも、その世代が集まりやすいものを選んでいる。

#### ○滝川委員

- ・みーもの森づくり事業は、H17 から実施されているが、過去に実施された提案の追跡調査は行っているか？
- （事務局）事業終了後にも継続して活動してもらうことが必要なため、事業実施後 4 年間は活動状況を報告してもらっており、参加者等を報告してもらっている。また、現地については、全てではないが別の業務と併せて確認している。
- ・過去の事例を検証することが重要。森づくりがうまくいかず、荒れてしまった場合でも、その原因を整理して、次につなげていく必要がある。

#### ○和田委員

- ・水と緑の森づくり事業の対象となるのは、林家ではなく一般県民だと思うが、林業の現状が厳しい中で、林家に対する支援は県で何かされているか？林家が利用できる補助事業などを紹介してほしい。
- （事務局）森林組合や市町村らとともに4年間の森林・林業戦略プランを策定し、森林経営計画の作成や路網・高性能林業機械の整備を支援することで集約化を図り、効率的な施業によって収益を上げることで林家へ利益が還元されるよう取り組んでいる。また、森林所有者への直接的な支援として、主伐や造林にかかる費用の助成なども行っている。

#### 2. みーもの森づくり事業採択審査

##### ○中島委員

- ・なぜ事業をしたいのか、事業の結果がどのように県民に還元されるのか、成果物が公益的に使われるのかが不明な提案は評価を低くした。
- ・全提案のうち、どれだけ採択されるのか？
  - （事務局）ご意見をいただいた提案については軌道修正するように条件をつけたり、金額や内容を精査したうえで最終的に交付決定することになる。
- ・県が税金を使っても良いと認めた事業に対して、団体が公益的な目的で税金を使用するのであれば、提案ごとの金額の大小は関係ない。事業内容の重みを評価すべき。
- ・提案書に事業の詳細が書かれていないと、判断の材料がないので評価も低くせざるを得ない。

##### ○滝川委員

- ・提案書でどんな森を作りたいのかが見えない提案は評価を低くした。
- ・提案には、伐採後に植樹を行うものが多く見られたが、なぜわざわざ伐採しその跡に植栽するのか。買った苗木を植えるだけだと参加者に「種から出た芽が大きく成長して森になる」ことが伝わりにくい。現場が分からないので、皆伐の必要性も判断できない。
- ・森林整備について、初年度の委託は必要だとは思いますが、委託先の森林組合と地域のつながりはあるのか？この活動がその地域にとってどんな事業かを分かったうえで、森林組合が委託された施業をしているのかが不明。
- ・提案団体が自らチェーンソーや刈り払い機を使う際の安全指導は徹底させてほしい。

#### ○藤原委員

- ・竹林で焼畑を行う提案は、安全対策が大変で相当な注意が必要。休耕田で大豆などを栽培する例はあるが、竹林跡地では耕作は難しいのではないか。
- ・水と緑の森づくり事業の認知度は 5 割を切っているが、自治会の企画立案者に対して事業の周知がされれば、事業参加者の認知も進み、認知度の向上につながるのではないか。
- ・子どもが参加している提案については評価を高くした。

#### ○和田委員

- ・竹の問題はどの地域も抱えている。竹林における焼畑を組織的に試行し、うまくいけば成功事例として地域のモデルになりうる。
- ・山はきれいに刈れば自らの力で自然に木が生えてくる。まずは山をきれいにすることが大事。
- ・一校一山運動を提唱してはどうか。
- ・サカキを植えて地域で収益を上げる取組はみーもの森づくり事業の対象となりうるのか？
  - （事務局）対象となる。当事業は、県民が森づくりに取り組むきっかけづくりを目的としている。
- ・実際には良い取組みを行っているのに、上手く書類ができていない提案書があるように思う。作文の上手い下手で評価をされてしまうのは残念。

#### ○白築委員

- ・団体の本気度を書面では判断できないので、エッセイを書いてもらったり、面接や現場を見て（森林サポーターなどを利用して）評価する必要がある。
- ・買った苗木を植えるのではなく、子ども達がどんぐりから苗を育て、上級生から下級生に継承し、植えることで、森林に対する意識がより高まるのでは。自分で描いた絵のプレートをたてるとか。
- ・メディアによる事業のPR（おしゃれなCMの放映や民間企業とコラボした水森夏フェスなど）を行い意識改革を図れば、若者の森や木に対する意識が高まると思う。
- ・提案書の書き込みが少なく、事業の主旨や思いが見えてこないものについては評価が難しい。

○その他

**事業を外部委託することの取り扱いについて**

- ・木を植えて育てるのは大変。その後の手入れを丁寧に続けなければ森に育たない。団体の本気度をみて支援すべき。(和田委員)
  - ・子どもを含む住民だけで森林整備から植林まで行うのは難しく、委託するのは仕方ない。しかし、下刈りなどの継続事業について、すべて委託にしている提案はいかがなものか。(藤原委員)
  - ・すべてを委託に出している提案や、購入した品を参加者へ配布するような提案については、お金の使途に疑問を感じた。(中島委員)
  - ・外部委託のない提案の評価を高くした。100%委託の提案はいかがなものか。(亀井委員)
  - ・現場に行かないと内容が見えないところはあると思う。以前参加した植樹イベントでは、現地まで道が整備され、植栽予定地にはひとつひとつ竹杭で印がつけられていた。その手間を思うと委託も仕方がないと思う。(亀井委員)
  - ・現地に行くのは賛成。現場を定点で撮影して森づくりの経過を報告してもらおうのはどうか？また、提案書に現地の写真を添付すると分かりやすい。(和田委員)
- (事務局)実績報告の際に写真を提出してもらっているが、提案の段階では写真の提出は求めている。最初の委託は必要だが、継続事業にもある程度県民に参加してもらおうべきという考え方は今後の参考としたい。